Teikyo University

ラーニングテクノロジー開発室 Newsletter

No.43

2016年 8月 22日発行

発行所　ラーニングテクノロジー開発室
発行責任者　渡辺博芳
http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/

アクティブ・ラーニングへの取り組み
～宇都宮キャンパスでも広がりつつある反転授業～

3月8日，宇都宮キャンパスにおいてLTセミナー「反転授業を組み合わせたアクティブ・ラーニング（AL）の取り組み」が開催されました．このセミナーでは，山梨大学の森澤正之教授をお招きし，山梨大学で実践されているALの取り組みについてご講演いただきました．

ALには知識の定着を促進したり活用する能力を高める効果がある一方，学修に時間がかかるため，座学授業と比べて知識伝達量が減るおそれがあります．そこで，知識伝達量の減少を防ぐため，山梨大学では反転授業を組み合わせてALを実施しているとのことでした．

反転授業で使用する講義ビデオは，PC画面と音声を動画として記録し，ネットワークを通じて配信するスクリーンキャストシステムを用いて作成されます．また，ALを初めて実施する教員に向けて，10～20分程度の事前学習動画を配信する，事前学習状況の把握のための簡単なレポートやアンケートなどを学生に与える，対面授業では30～60分で協調型グループワークを与えるという授業テンプレートを用意しています．このテンプレートをベースに，ALに慣れていく過程で教員自身にカスタマイズしてもらうことで，ALの導入を進めています．そして，ALの導入により試験の成績が全体的に向上した，授業時間外の学習時間が増加したといった効果が確認されています．

セミナーではその他に，反転授業を組み合わせたALを導入するポイントとして，講義ビデオは簡易なものでよいと考えること，事前学習を予習と位置付けず授業の一部と考えること，ALの実施を通じて授業改善が進むことなどが紹介されました．

このセミナーを受けて，宇都宮キャンパスでは反転授業を含めたALの導入が広がっています．セミナー当日には，「すぐにはじめられそう」，「やってみようという気になった」という声が数多くアンケートに寄せられました．宇都宮キャンパスに設置されたアクティブラーニング推進WGでも，各学科による授業のAL化が進められる中，早速，実施に向けて準備が始まり，2016年度前期からは理工学部機械精密システム工学科の「図学」，航空宇宙工学科の「物理1」で反転授業が導入されました．それ以前から反転授業を実施していた総合基礎の「英語2」，理工学部ヒューマン情報システム学科（現情報電子工学科）の「情報基礎1，2」「プログラミング1」も含め，キャンパス全体に取り組みが広がっているようすがわかります．

本学には学習教育の支援基盤としてのLMSや講義等の映像を収録し配信するシステム（Mediasite）があります．2015年10月から宇都宮キャンパスでは，教員が自分のPCでビデオを収録・編集し，配信システムにアップロードできるようになりました．また，教員が既に持っている動画を配信システムにアップロードして，LMSの授業コースから学生に公開することもできます（Tips参照）．

当然ながら，反転授業をすればよいということではなく，どのようなALを授業に取り入れるかが重要なポイントとなります．ラーニングテクノロジー開発室では，授業設計についてのコンサルテーションを適宜行ったり，LMSやビデオ教材の作成・視聴環境に関する技術的な相談を受けるなど，授業のAL化を今後とも支援していく予定です．

森澤先生のビデオを含む LTセミナーの講演ビデオを公開しています

LMS内の「教職員のひろば」で森澤先生のご講演のビデオや，これまでのLTセミナーのビデオ・資料を公開しています．ぜひご覧ください．

○LTセミナービデオの視聴

1. LMSにログインする
2. コミュニティの「教職員のひろば」を開く
3. 「教職員のひろばホーム」を開く
4. 「LTセミナー資料」を開く
5. 各回の中にあるビデオをクリックする
   （森澤先生のビデオは2015年度第114回のフォルダを参照）

※ 「教職員のひろば」は，LMS IDをお持ちの帝京大学教職員の方が閲覧できるコミュニティです
※ 森澤先生の講演ビデオは，2017年3月31日までの期間限定公開です

LMS活用事例レポート

八王子キャンパスの教職課程における活用事例

今回は，本学LMSの機能の一つである教職履修者カルテシステムの活用について，教職センターの鈴木賀映子先生にお話を伺います．

LT　教職履修者カルテシステムとはどのようなものでしょうか．

鈴木先生　2010年度以降に入学した教職課程の履修者に対して，1年生からの系統的な履修履歴や学生の教育活動を，教職科目の担当教員が把握することが求められるようになりました．これに応えるために，本学では履修者ごとの情報をカルテとして管理するようにしました．これらのカルテを管理する情報システムがLMS上の教職履修者カルテシステムです．このシステムにより，八王子と宇都宮で合わせて約3,000人分という膨大な数のカルテの管理に対応できます．カルテには，教職課程関連の科目の成績，履修者による振り返り結果と教員からのフィードバック，教職に関連する活動の記録などが記載されます．

LT　履修者はどのように使っているのでしょうか．

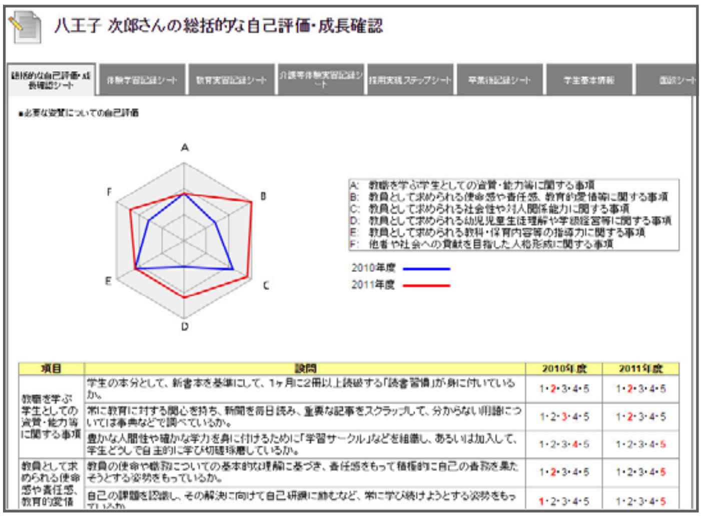
鈴木先生　前期，後期の各学期が終わり履修科目の成績が確定したあとに，教職課程科目ごとにその学修について振り返り，結果をカルテに記入します．また，学年末に1年間の振り返りをした結果も記入しています．ここでは，教職課程における学力，教員として求められる能力を自己評価します．毎年の自己評価の結果が同一ページにまとまって表示されるので，自分の成長を確認することができるわけです．

LT　履修者を指導する上ではどのように活用しているのでしょうか．

鈴木先生　主に，教職課程を担当する各学部の教員および教職センターの教職員が，履修の指導や面談をする時の基礎資料として活用しています．成績を含めた履修に関する情報のほか，教育実習やボランティア活動などの教職に関連する活動，これまでの面談履歴などがすぐに把握できるので，履修者個人に応じた指導がやりやすいです．

LT　まさに教職履修者の「カルテ」として使われているのですね．今後はどのようなことをお考えでしょうか．

鈴木先生　教職履修者カルテシステムの活用を発展させて，卒業生のキャリアサポートにつなげたいと考えています．たとえば，教職採用を目指して活動をしている卒業生の情報を大学側が把握することで，それぞれの卒業生の状況に適した求人情報を紹介できるようになるとよいですね．



学年ごとの振り返りの記録の例

LMS Tips

◆ [自分のビデオを授業で配信するには](宇都宮向け)
◆ [自分のPCでビデオ教材を作成するには](宇都宮向け)

※PDFにてご覧の方は，上記2件のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます．（http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/）

編集後記

１年ほど育児休暇をとっていましたが，今年の3月末より仕事に復帰しました．１年仕事から遠ざかっていると，今まで当たり前だった業務も，やり方を少し忘れていたり，新しいことが増えていたりと，懐かしいような初めてのような新鮮な気持ちを感じます．長いお休みでしたが，これからまた精一杯頑張りますので，よろしくお願いいたします．（髙野）

帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室　宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 203室
◇連絡先：　TEL　028-627-7243（直通）　／　Mail　LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp
◇室員　：渡辺博芳(室長)，高井久美子，古川文人，小島一晃，髙野芳恵，渡部里美，眞壁美香